

## 平成30年度 学校関係者評価書

### 1. 自己評価書全般について

- ・学校全体どの学年も、落ち着いた学習環境のもとで教育活動が行われている。授業規律もかなり確立されてきたと感じる。
- ・放課後平野スキルアップタイムや放課後補充教室を継続し、個別指導により、全体的な学力の向上や個人差への改善が図られ、4年連続区の平均を上回ったことは、喜ばしい限りである。学力向上について、学校評価の肯定的評価が98%であり、保護者からも支持されていることがわかる。この結果が今後も継続されるよう強く望む。
- ・毎月の生活調べにより子供の生活習慣が改善されつつある。特に朝食と家庭学習、起床時刻については効果大きい。就寝時刻の改善は今後の課題である。
- ・教員が子供の目線に立ち、話を丁寧に聞き子供の心身の安定や自己肯定感の向上が感じられる。
- ・家庭学習（宿題）が次第に定着してきている。放課後子ども教室での取り組みによる協力もみられた。今後更に保護者との協力体制を進めて子供に学習習慣の定着などを図る必要がある。
- ・基礎学力定着の維持そして、向上を図るためには、教員一人一人の指導技術のさらなる向上が課題である。区の施策である教科指導専門員による指導を今後も活用し、指導技術のさらなる向上を図ってほしい。

### 2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・給食費の多額未納者がいることがわかった。人権上のこともあり、学校側は、電話や文書で通知をしているがなかなか改善できていないこともわかった。行政側から法的手段も含め、給食費を納入させる方法を強化してほしい。
- ・子供が大きくなると行動範囲が広がるので「いつまでに、だれと、どこへ」を確認するための声かけをすること。また、トラブルにあわないためにも「お金をもって遊びに行かない」「ゲームセンターや繁華街に子供だけで行かない」等の約束を徹底させてほしい。
- ・家庭教育講演会への保護者の参加が少なく残念である。「学校は学習するところであり、家庭でのしつけが大切である」ことの認識をさらに広め強化するよう進めてほしい。
- ・学校評価10項目で肯定的な評価が平均96.6%となり、保護者から学校の教育活動が肯定的に評価されていることが分かるが、その中では「学校・家庭でのあいさつ」のポイントが84%とまだ低い。地域や学校で子供たちから声をかけられる場面が多くなっていると実感しているが、今後も学校が中心となり、保護者・地域も協力して指導・定着するよう進めることが大切である。協議会としても、朝のあいさつ運動等継続し、協力していく。
- ・トイレの改修、特別教室等のエアコン設置、外壁改修、屋上防水工事やプール改修等、学習環境、生活環境が整えられ感謝している。校庭が北側にあり水はけが悪く、冬場は校庭の半分に太陽の光が当たらないため、雪が降ると長期間校庭が使用できないという現実問題がある。校庭を改修して水はけをよくしてほしい。「放課後子ども教室」でも子供たちが元気に遊べるよう、開かれた学校づくり協議会として早急に改善するよう更に強く要望する。また、児童用の机・椅子の老朽化も目立つ。450名の児童分を学校予算で賄うことは難しい。区として別予算をお願いしたい。

### 3. その他

- ・学校全体が落ち着いている。教職員の努力に感謝すると共に、この雰囲気を持しつつ、家庭・地域と一体化して子供たちに様々な経験をさせ、自己肯定感を高める教育活動を推進してほしい。